

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価者版(2016年版、名古屋建築環境総合性能評価システムマニュアル2016) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレサンス伝馬二丁目(1616)	階数	地上15F
建設地	愛知県名古屋市熱田区伝馬二丁目1601番2	構造	RC造
用途地域	市街化区域、防火地域、緑化地域	平均居住人員	84人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年11月 予定	評価の実施日	2022年3月10日
敷地面積	437 m ²	作成者	
建築面積	176 m ²	確認日	2022年3月11日
延床面積	2,059 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>= BEE 0.8 ★★☆☆☆</p> <p>★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C:★☆☆☆☆</p>	<p>★☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30%</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p>	<p>Q2 サービス性能: 3.2 Q3 室外環境(敷地内): 2.7 LR1 エネルギー: 2.4 LR2 資源・マテリアル: 2.6 LR3 敷地外環境: 2.6</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア= 3.0</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 2.5</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.6</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.6</p>

3 設計上の配慮事項	
<p>総合 建物を道路からセットバックさせ緑地を配することで、ゆとりのある計画とし周辺環境との調和を図った。</p>	<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境 建具は遮音性能の高いT2仕様とし、屋内音環境に配慮した。ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用することで化学汚染物質の発生を抑制し空気質環境向上に配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能 高度情報通信設備として光ケーブル、ケーブルTV等に対応させた。</p>
<p>LR1 エネルギー 照明にはLEDを採用し、共用部照明は自動点滅等の制御をおこなうことで設備システムの高効率化に配慮した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル フロンやハロンを使用しないことで、汚染物質含有材料の使用回避に配慮した。</p>
	<p>Q3 室外環境(敷地内) 外構に緑化を行うことで敷地内歩行者空間の暑熱環境を緩和し、敷地内温熱環境の向上に配慮した。</p>
	<p>LR3 敷地外環境 外構の緑化を行うことで地域の温熱環境悪化の改善に配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)プレサンス伝馬二丁目(1616)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.4
LR1	エネルギー	2.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	2.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.4



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。